SINCE 1971
JSWH
The Japanese Society for Wound Healing
NEWS LETTER
日本創傷治癒学会
2011.4
No.62

International Scar Meeting in Tokyo 2010開催報告

International Scar Meeting in Tokyo 2010事務局
日本医科大学形成外科　小川　令

2010年12月2日(木)・3日(金)に百束比古会長のもと、東京は千代田区の都市センターホテルにて第40回日本創傷治癒学会を開催した。これに先立ち、11月30日(火)、12月1日(水)に、同会長・同会場にてInternational Scar Meeting in Tokyo 2010を開催した。

本国際学会の主旨は、瘢痕治療や線維化疾患の治療を、国際的な視野から討論することにあった。2006年からフランスではScar Meetingが開催され、われわれも日本で瘢痕・ケロイド治療研究会を2006年から開催してきた。両研究会は学術提携の関係にあるが、今回はフランス側からアジアでのScar Meeting開催の要請もあり、第5回瘢痕・ケロイド治療研究会と合同開催という形でInternational Scar Meeting in Tokyo 2010を開催する運びとなった。

International Scar Meeting in Tokyo 2010のテーマは、全身の瘢痕や線維化疾患の治療法開発や機序解明であり、熱傷瘢痕や外傷による瘢痕、ケロイドや肥厚性瘢痕といった皮膚の瘢痕の基礎研究、再建手術や美容的治療から、種々の臓器の線維化疾患に対する治療法などが討論された。23カ国からの医師・研究者が参加し、2日間にわたり、招待講演21演題、パネルディスカッション6演題、一般口演52演題、ポスター発表26演題の計105演題に関して白熱した討論が行われた。

特に、ケロイドや肥厚性瘢痕の治療に関しては、日本の知識や技術は世界最先端であり、「Learn from Japanese Keloid Masters」と題したセッションでは、伊藤仁先生と冨士森良輔先生に50年以上の治療経験をお話いただき、多くの外国人の参加者から賛辞をいただくこととなった。

瘢痕・ケロイド治療研究会のセッションでは、「ケロイド・肥厚性瘢痕の分類・評価」をテーマに、研究会が行ってきた、国内・国際統一分類・評価基準作成のため、2009年度の分類・評価案を各施設で使用した経験についての討論が行われた。瘢痕・ケロイド治療研究会では2011年にさらに問題点を修正した分類・評価基準を報告予定である。

●日本創傷治癒学会事務局
〒160-8582
東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部外科学教室内
tel.03-3351-4774
fax.03-3355-4707
e-mail : info@jswh.com
URL : http://www.jswh.com

招待講演では、瘢痕の予防・治療目的での、米国のTGFβ受容体拮抗薬、英国のTGFβ3薬、韓国のHGF薬、日本のbFGF薬の報告があり、新たなサイトカイン治療の可能性が示された。また美容的瘢痕治療では、各種レーザー治療、脂肪注入やメイクアップ治療が討論された。各臓器における線維化のセッションでは、声帯瘢痕、黄色靭帯硬化症や腱の研究、Fibrocyteの関与を示唆する研究報告や、幹細胞などを使った細胞治療の可能性が討論された。学術提携を行った日本創傷治癒学会との相互セッションでは、瘢痕生成と上皮系組織、またマトリックスや神経系の相互関係や、ヒトと動物による瘢痕生成の比較などが話題となった。また、組織工学や再生医療的なアプローチによる瘢痕抑制目的でのscaffoldの開発も討論された。2日目の最後のセッションは、熱傷瘢痕の治療であった。針を用いて瘢痕組織の正常皮膚への置換を促進させるmedical needlingから植皮、人工真皮、エキスパンダー、薄い皮弁といった再建方法が報告された。

International Scar Meeting in Tokyo 2010の意義は、いままで創傷治癒や熱傷の学会、美容医療や形成外科の学会、また線維化疾患を扱う学会、サイトカインや幹細胞を扱う基礎系の学会で、部分的に討論されてきた「瘢痕」や「線維化疾患」という項目を共通項目とし、様々な分野のエキスパートが一同に会し、それぞれの立場から専門的な見解を示し、皆で横断的な討論ができたことにある。今後はまだ未定であるが、近い将来第2回International Scar Meeting in Tokyoを開催する予定である。

2011年度　日本創傷治癒学会評議員

【五十音順敬称略】

今年度は以下の62名が評議員として学会の発展に尽力してまいります。
よろしくお願い申し上げます。（詳細は学会ホームページにも掲載されています。）

赤坂 喜清、 秋田 定伯、 秋野 公造、 浅尾 高行、 安藤 暢敏、 石田 裕子、 磯貝 典孝、
市岡 滋、 井上 聡、 井上 肇、 上田 和毅、 内沼 栄樹、 大慈弥裕之、 大野 真司、
岡田 保典、 小川 郁、 小川 令、 小野 一郎、 加藤 広行、 貴志 和生、 北川 雄光、
北野 正剛、 木山 輝郎、 窪地 淳、 熊谷 憲夫、 桑野 博行、 古森 公浩、 近藤 稔和、
雑賀司珠也、 坂本 長逸、 佐藤 道夫、 真田 弘美、 篠澤洋太郎、 島田 光生、 調 憲、
白水 和雄、 須釜 淳子、 鈴木 茂彦、 高木 元、 高野 邦夫、 武田 啓、 竹之下誠一、
館 正弘、 田中 秀子、 田畑 泰彦、 田原 真也、 塚田 邦夫、 徳永 昭、 土佐 泰祥、
中塚 貴志、 中西 秀樹、 中村 哲也、 野口 剛、 百束 比古、 丸山 優、 水野 博司、
宮澤 光男、 宮本 正章、 森本 尚樹、 吉田 昌、 吉村 陽子、 和田 則仁

WRRに会員の論文が掲載されました

会員の論文がWound Repair and RegenerationのVolume18.6に掲載されました。論文名、著者（筆頭執筆者または第2執筆者）は下記の通りです。

投稿規程に関しましてはジャーナルホームページ、http://www.wiley.com/bw/journal.asp?ref=1067-1927&site=1より入手してください。また各巻頭に掲載されておりますInformation for authorsをご参照下さい。なお、円滑な審査を行うために、2004年度よりオンライン投稿を推奨しております。

秋田 定伯 先生（長崎大学医学部 形成外科教室）
秋野 公造 先生（長崎大学医学部 形成外科）
「Basic fibroblast growth factor is beneficial for postoperative color uniformity in split-thickness skin grafting」
P. 560～566

【訂正とお詫び】
前号（No.61）に掲載された会員の論文紹介で、お名前が抜けてしまっていた会員がおりましたので、
以下の通り訂正させていただくとともに、ご迷惑をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。

会員の論文がWound Repair and RegenerationのVolume18.5に掲載されました。論文名、著者（筆頭執筆者または第2執筆者）は下記の通りです。

村上 馨 先生　（防衛医科大学校 歯科口腔外科）
石原 雅之 先生（防衛医科大学校研究センター 医療工学部門）
「Enhanced healing of mitomycin C-treated healing-impaired wounds in rats with hydrosheets composed of chitin/chitosan, fucoidan, and alginate as wound dressings」
P. 478～485